

昭和57年度事業記録
Report on the Activities in Fiscal 1982

1. 特別展記録 Special Exhibitions

ミレーの「晩鐘」と19世紀フランス名画展

1982年4月17日～6月13日

主催：国立西洋美術館，読売新聞社，フランス美術館総局

出品内容：絵画30点

L'Angélus de Millet. Tendances du réalisme en France, 1848-1870

17 April — 13 June 1982

Exhibited works: 30 paintings from the Musée du Louvre, the Musée d'Orsay and other French museums.

ミレーの《晩鐘》を中心に、コロー、ドーミエ、テオドール・ルソー、クールベ、ドービニー、マネ、ブーダンの……、さらに、のちに印象派の画家として活躍するモネ、ピサロ、シスレーらの初期作品を加えた計30点の油彩画によって、1848年の二月革命から1870年のパリ・コミュンに至る約四半世紀のフランス絵画における写実主義の諸相を概観した。本展はミッテラン仏大統領の訪日記念展として開催され、《晩鐘》はいわばおみやげとして初出品されたものであるが、その根強い人気には改めて考えさせられた。

アメリカ絵画展 ロックフェラー3世夫妻コレクション

1982年7月27日～9月19日

主催：国立西洋美術館，ジャパン・ソサエティー，サンフランシスコ美術館

出品内容：絵画61点，水彩8点 計69点

American Painting 1730-1960 A Selection from the Collection of Mr. and Mrs.
John D. Rockefeller 3rd

27 July — 19 September 1982

Exhibited works: 61 paintings and 8 watercolours from the Fine Arts Museums of San Francisco and Rockefeller family.

本展は植民地時代から1960年代に至る約250年間のアメリカ絵画の発展を概観する本邦初の試みであり、ロックフェラー3世夫妻コレクションから、コブリー、ステュアート、ヒックス、ビンガム、レイン、ハーネット、ホーマー、サージェント、エイキンズ、ワイエスなど、アメリカ絵

画、そのなかでも特に写実主義的潮流を代表する画家の作品69点が出品された。これはジャパン・ソサエティー（日米協会）の創立75周年記念事業の一環として開催されたもので、同コレクションの大半を遺贈されたサンフランシスコ美術館の全面的な協力を得た。

モネ展

1982年10月9日～11月28日

主催：国立西洋美術館，日本テレビ放送網，読売新聞社

出品内容：絵画70点，参考作品2点，計72点

Monet

9 October — 28 November 1982

Exhibited works: 70 paintings and 2 reference works from museums and private collections in France, U.S.A., U.S.S.R., Switzerland, Great Britain and Japan. (72 works in total)

印象派を代表する巨匠クロード・モネの画業を、20歳代前半の写実主義的作品から第二次大戦後のアンフォルメルを予言するような最晩年の作品に至るまで、計70点の油彩画によって辿った。印象派という名称の起源になったと伝えられる《印象、日の出》、モネの日本趣味を端的に示す《ラ・ジャポネーズ（日本娘）》、「睡蓮」の連作のほか、わが国では比較的なじみの薄い最晩年の作品も多数出品された。当国立西洋美術館も松方コレクションから《睡蓮》《舟遊び》など8点を出品し、その質の高さが注目された。なお参考作品として、ルノワールの描いたモネ夫妻の肖像が出品された。

2. 文化庁巡回展記録 Tour Exhibitions

国立美術館所蔵 内外美術名品展

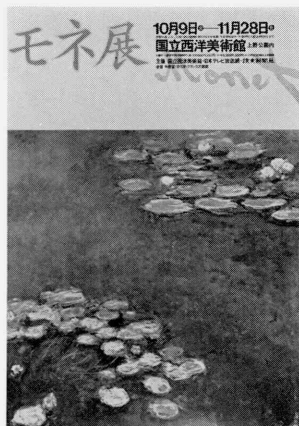
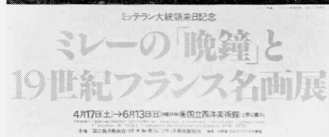
1982年10月1日～10月17日（鳥取）、10月23日～11月7日（香川）、11月13日～11月28日（高知）

主催：文化庁，東京国立近代美術館，京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立国際美術館，鳥取県立博物館，香川県文化会館，高知県立郷土文化会館，各県教育委員会

会場：鳥取県立博物館，香川県文化会館，高知県立郷土文化会館

出品内容：当館より絵画17点，彫刻3点を出品（計20点）

文化庁巡回展は3年目を迎え、特に本年は当館が東京国立近代美術館と共に当番館となったため、学芸課研究員が、カタログ編集，三会場での展示指導，高知展終了時における作品点検を担当した。



＜ミレーの「晩鐘」と19世紀フランス名画展＞ 特別講演会

ミレーの「晩鐘」と19世紀フランス名画展について

5月22日

東京芸術大学助教授 佐々木英也

5月29日

レアリズムから印象主義へ

東京大学教授 高階秀爾

〈アメリカ絵画展〉特別講演会

8月28日

アメリカの美術

武蔵野美術大学教授 桑原住雄

9月4日

ユダヤ系アメリカ人の文学と芸術

東京大学教授 佐伯彰一

9月11日

アメリカ絵画展の出品作品について

東京国立近代美術館次長 富山秀男

〈モネ展〉特別講演会

10月9日

クロード・モネ——視覚と瞑想

フランス学士院会員 ジェルマン・バザン

(通訳：馬淵明子)

10月30日

モネと日本趣味

神戸大学教授 池上忠治

11月6日

「現代生活」の画家モネ

国立西洋美術館研究員 高橋明也

11月13日

モネの技法

絵画修復家 黒江光彦

4. 修復記録 Restoration

所蔵作品番号／作家名・作品名／材質・寸法

P・1959-104

ポール・ゴーガン

《水浴の女たち》

油彩、麻布 38.1×46.2 cm

修復前の作品状態概要

全面にわたる絵具層の

亀裂及び微細な剥落

支持体の麻布が薄く全

体に著しく劣化

修復処置概要

全面裏打

画面洗浄

亀裂及び剥落箇所の補彩

保護膜の塗布

P・1959-23

エミール・ボワイエ

《水族館》

油彩、麻布 64.9×86 cm

画面の著しい汚損

絵具層の部分的な亀裂

及び剥離

支持体の麻布の劣化及

び変形（一部破損、部

分的な裏打）

変形した麻布の矯正

部分的な裏打の除去

全面裏打

新しい木枠に張替

画面洗浄

補彩 保護膜の塗布

〔修復：絵画修復家 黒江光彦〕

5. 展覧会貸付作品 Works Lent Out

展覧会名／会期／会場

Expositions coloniales 1906—22

November 1982 — February 1983

Musée de la Vieille Charité Marseille

所蔵作品番号／作家名・作品名

P・1959-66

モーリス・ドニ 《エル・ケーテルの墓地》

P・1959-68

モーリス・ドニ 《コンスタンティース、アル
ジェリア》

「ルドン展」

1982年4月17日～5月16日

群馬県立近代美術館

G・1978-5

ルドルフ・ブレダン 《急流》

「近代絵画への招待 光と影と人と街と
——印象派からエコール・ド・パリへ」

1982年11月3日～12月12日

埼玉県立近代美術館

P・1959-164

カミーユ・ピサロ 《エラニーの秋》

P・1959-107

ポール・ゴーガン 《画家スレヴィンスキーの
肖像》

「明治15年・パリ」

1982年11月3日～12月19日

岐阜県美術館

「1880年代のバリ画壇展」

1983年1月20日～2月20日

神奈川県立近代美術館

P・1959-138

マルタン 《テラス》

P・1959-114

ローラン 《テラスの二人の婦人》

P・1959-90

カロリュス＝デュラン 《坐せる裸婦》

P・1959-104

ポール・ゴーガン 《水浴の女たち》

P・1959-175

ビュヴィス・ド・シャヴァンヌ 《貧しき漁夫》

P・1959-183

ルノワール 《木かげ》(岐阜のみ)